



置や密度をコントロールするとともに、色漆で貫入文様をさらに浮き立たせた。丸滋製陶株式会社が開発を担当し、貫入制御のパラメータについて、滋賀県信楽窯業技術試験場に開発協力いただいた。

「Display Andon」は、和紙とエレクトロニクスの融合で生まれたコンセプトで、スマートフォンやタブレット等の電子ディスプレイから放射される光を和紙に透過させて、安らぎのある、柔らかな照明空間を提供する商品。開発を担当する株式会社太陽ならびに、滋賀県東北部工業技術センターと本学の共同研究の結果、商標、意匠、特許の出願を行った。

「組紐タイ」は、藤三郎紐独自の仏蘭西格子の組紐と、銑金具の白金屋のクリップで構成されており、2つの伝統工芸を生かした商品コンセプト。クールビズで増えた開襟シャツスタイルの襟元を、締めつけずにおしゃれに演出する新しいタイプのネクタイを提案した。

「祈り空間」は、2つの要をもつ扇骨からイメージした背板と漆台座で構成した新しい祈り空間であり、小型のものは祈り空間として、大型のものは瞑想空間としてコンセプトを創出した。株式会社井上仏壇店が開発を担当し、試作を滋賀県東北部工業技術センター、滋賀県工業技術総合センターに協力いただいた。

「Mottainai」は、扇子作りの際に「割れ」や「シミ」などがある不良品となった扇骨材を積み重ねて、曲げ加工により生み出した漆工芸品。本学の美術教育講師(隼瀬大輔氏)が開発を担当し、高島市のSEN-KOTSU 工房(代表多胡裕之氏)に材料提供いただいた。(文責 特任教授 山本 卓)

